

平成 28 年度佐渡市第 3 回将来ビジョン等策定・推進会議 会議録（概要）

- I 会議の名称 佐渡市将来ビジョン等策定・推進会議
II 開催日時 平成29年1月25日（水）午後 1 時から午後 2 時30分まで
III 場所 佐渡市役所3 階 大会議室

IV 議事

1. 開会
2. 議題
(1) 佐渡市将来ビジョン（原案）について
(2) 意見交換
3. その他
4. 閉会

V 出席者

別紙名簿のとおり

VI 会議の概要

●議事

- (1) 佐渡市将来ビジョン（原案）について
・ 前回会議におけるご意見と対応方針について
会議資料により説明

(2) 意見交換

（委員）

まち・ひと・しごと総合戦略（概要版）を中等教育学校で配布されて、冬休み中の課題として、子ども達が大人の意見を聞き取る取組があった。子ども達が総合戦略を知ることとはとても重要なことだと感じた。

（委員）

移住、観光、その受入態勢について聞きたい。

移住環境に教育、学ぶことの視点が弱いことと、庁舎については、本庁、支所等の役割をもう少し明確化することが必要だと感じた。

前回会議での意見を踏まえた対応方針について、12 番の有形無形の文化財の活用について、金銀山を中心とした相川地区における取組が中心のようだが、佐渡の歴史、文化を形成したのは、相川金銀山のみではなく、他の地区においてもたくさんある。他の活用法について検討段階のようだが、今後の取組について、佐渡の歴史、文化に興味のある方がたくさんいるので、有識者等を集めて意見交換する場を設定するのもよいのではと思う。次に、移住希望者や移住者への支援として移住サポートセンターの設置を明確に打ち出したわけだが、佐渡の魅力をどう打ち立てて、どのような人に、どのような情報を発信するのか、この辺りは非常に重要である。また、観光客、移住希望者の受入

態勢の充実を図り、ソフトランディングさせて佐渡で豊かな生活をさせるためのサポートをどのような方法で行うのか、しっかりとまとめて上げて欲しい。

15 番、16 番、食についてであるが、佐渡の食に興味を持っている人は多い。年間を通して佐渡の食を安心して食べることができるような取組を行って欲しい。

次に原案の 48 ページ、移住定住の取組で、移住希望者にとって就業、居住の場が重要とあるが、教育も等しく重要である。特に子を持つ移住者にとって、就業、居住、教育は 3 点セットである。

教育については、佐渡独自の小中高一貫した実りある教育の展開が可能と考える。例えば海士町は高校の魅力化計画を一橋大学と連携して、取組んだ結果、全国的に注目されて島外、海外からの留学生が増加しており、佐渡でも同じ成果が考えられる。これを通して観光、移住を推進することができると思う。

次に庁舎整備について、支所等を様々な人が集まってディスカッションする拠点施設として地域活性化を図り、佐渡活性化につなげるのが可能と考える。移住、観光、教育にどのような役割を果たすことが可能なのかがしっかりと検討して欲しい。

参考までに、日本離島センター発行の島で教育と地域づくりをテーマにした記事があり五島や海士町等の取組についての掲載はあるが佐渡の掲載はない。島の代表格である佐渡としての教育を前面に出した地域づくりを検討して欲しい。

(佐渡市)

文化財を活用した観光の振興については、今のところソフト面の取組を主に進めております。ハード面については今後、別途協議して進めていきたいと考えている。

(佐渡市)

移住環境について、教育面の支援が必要であることは認識しているが、ビジョン本文に記載がないとの指摘であるが、移住環境や子育て環境を含めた佐渡活性化に向けた地域づくりの大きなテーマの中で、子育て環境の充実について触れていることから、移住環境の項目での記載はない。

移住サポート支援について、移住希望者への情報発信と移住後のサポートについて、しっかりと検討した上で支援して行きたいと考えている。

(佐渡市)

教育委員会は別の用務で本日出席していないので、しっかりと伝えた上で、ビジョンに書き込むべきことと、施策として取組んでいくことを協議させる。ご存じのとおり教育委員会は首長部局とは違う教育現場からの意見等もあることから、そういった制約の中でどこまで対応できるのか協議させる。

(委員)

人材育成に関連して、海士町において様々な職種 60 人のサポート体制による未来を支える人づくり元年として人間力推進プロジェクトを平成 19 年度から始めている。これは教育委員会だけで完結する取組ではないと考える。この辺りについて総合的観点で

の見解はいかがか。

(佐渡市)

従来、教育方針については教育委員会のみで協議されてきたが、教育基本法の改正により昨年度から首長部局の施策とのすり合わせが行われることになっており、その中でしっかりと連携したいと考えている。しかしながら、海士町と本市は規模等で違いがあることから、同様な取組が効果的かも含めて、しっかりと見極めて対応したいと考える。

(委員)

原案の 45 ページ、(4)道路の整備において、実際行うこととして未改良区間の整備、アクセスの改善、沿道修景美化、交流人口拡大に資する道路整備、既存道路施設の計画的な修繕更新の 5 項目を上げているが、概要版ではロングライドなど自転車によるスポーツツーリズムの交流人口拡大に向けた受入環境の充実とまとめている。そうであれば原案をロングライドなど交流人口拡大に資する道路整備に整理した方が分かりやすい。庁舎整備については整備方針の記載はあるが、支所等でどのようなサービスを行うのかソフト面の方針が見えてくると良いのかと思う。

(委員)

ビジョンの基本コンセプトの記述はあるが、その考え方等についての説明が弱いと感じる。このビジョンを市民の皆様理解してもらうには、今後、基本コンセプトの説明をしっかりとしていく必要があると思う。

(委員)

佐渡における企業活動の問題点として一番に空路がないことである。やはり、企業間競争は製品の納期厳守が重要であり、航路のみに頼った輸送手段では企業間競争に勝てない。

また、佐渡には若者の働き場がないとよく言われているが、企業側はよい人材を求めているので、これからの佐渡の将来を担う若者には、積極的に就職する場を求めて欲しい。

(委員)

感じたこととして、島外に進学等で出た若者が帰ってくるための雇用の場の提供が必要と考える。その場とは、企業のみではなく、基幹産業である農林水産業も含めた選択肢が必要である。例えば、高齢化による離農の結果、耕作放棄地が問題視されているが、多様な担い手確保の観点で U I ターンを含めた新規就農者への支援をもっと充実させて、モチベーションを高めてあげることで耕作放棄地対策につながるものとする。

(委員)

佐渡の利点を活かしたブランドについては、ビジョンの方針で間違いないと思うが、それを維持していく上で、儲かる農業の仕組みづくりが必要になる。他産地と比較して一番の弱点は離島による流通コストであり、これをカバーできるようなターゲットを絞った販売戦略が必要である。一方、地産地消の取組も重要だが、やはり島外販売の強化

が図られないことには平成31年度農林水産物販売額目標の64億円は達成できないと考える。観光においては、来やすい、ちょっと行ける感覚が佐渡観光には欠けており、佐渡に行くには1泊することが条件になったりすることで、佐渡に行って見たいが、距離感などから選択されない結果となっているものとする。その中で航路の活性化とあるが、3つの航路それぞれを活性化させることは難しいのではないかと考える。どこかに集約した方が、効果的と思う。物流環境は非常に重要であり今後の課題としてしっかりと取組んで欲しい。

(委員)

佐渡の里山を守るためには林道整備が重要であり、整備を進める中で観光、市民の健康づくりに活用することができないか検討して欲しい。

農林水産課長

林道整備について、スピードアップして実施していきたいと考えている。

(委員)

行政改革について、職員の意識改革、人事評価など書かれているが、近年、職員の不祥事が絶えない状況を踏まえて何が原因なのか、検証する必要がある。職員一人一人がもう少し意識を変えて、仕事の進め方の見直しや積極的な職員提案が行われるよう、取組んで欲しい。

庁舎問題について、現庁舎を活用することに決まったようだが、バリアフリー化など市民の利便性の向上を目的に整備して欲しい。支所等については、合併した以上、全てを整備するのではなく、ブロック的な整備が必要なのかと考えるが、長期的な視点で計画して欲しい。

(委員)

個人的感想になるがビジョンとして暗いイメージ、もう少し長期的な視点に立った明るいビジョンが必要かと思う。市民に分かりやすいビジョンにするため、厳しい面もあるかと思うが、もっと的を絞った目玉的な施策を打ち出して市民一丸となってそれに向かって進んで行くようなことがあってもよいのかと思う。まち・ひと・しごと総合戦略の概要版を見た感想として、もう少しデザイン性の観点で手にとって見たいと感じるような工夫が欲しい。

(委員)

本庁舎整備の基本方針について、現庁舎を活用して耐用年数まで利用していくとのことだが、先般の糸魚川大規模火災では古い建築物が全焼した傾向があるので、耐震改修と合わせて耐火改修にも心がけて欲しい。

原案について基本的には賛成だ。

(委員)

概要の9ページ、教育振興基本計画に基づく取組が書かれているが、その計画は完成しているのか。

(佐渡市)

今年度中に完成する。大筋の方針が決まっている中で、その方針に沿う取組を推進するものであり、その辺の状況を踏まえて記載している。

(委員)

人材育成の観点で教育はとても重要なことであるため、その辺りを教育振興基本計画にしっかりと盛り込んで欲しい。

(委員)

佐渡市の人口減少を食い止めるためには、佐渡の若者が佐渡に居たいと思わせる取組が必要である。それには、若者が活発に議論することや施策提案の場が必要である。市の若い職員がもっと活躍できる環境づくり、意識づくりを進めて、市役所の活性化を図り、市の若い職員が誇りを持ち、能力が発揮できるような行政改革を進めて欲しい。

(委員)

子育て支援や人材育成について、様々な取組を行っているが、私の思いと少し違う点がある。人材育成とは、幼児期から始まるものであり、この時期の教育は親の影響がとても大きい。幼児に対する親の接し方等を目にすることがあるが、少し問題があると感じるので、この辺りの取組を何とかして欲しい。

3. その他

特になし

4. 閉会